

観相資料の学際的研究—発展研究のための理論と可能性—

相田 満 (国文学研究資料館研究部・総合研究大学院大学文化科学科)

観相学の知識体系と文学・美術、さらにキャラクター造形などの表現活動に及ぼした影響の具体相を求めるために、相書と観相に関わる言説の情報資源化と分析を進め、併せて観相の国際比較を進めている。本研究の具体的方法として、3種のデータベースの構築と利用を進めることで情報の共有と言説資源の蓄積を進めている。本研究は、これらの諸活動を通じて、忘れ去られた学問とでもいべき日本「観相学」の知識体系の意義付けと、現代的可能性を世に問うことをめざしている。本稿は当該研究の理論的裏付けと、具体的展開について述べる。

Interdisciplinary study of physiognomy of Documents - Theory for the development of research and possibilities - Aida Mitsuru (National Institute of Japanese Literature, SOKENDAI: The General University for Advanced Studies)

I'm promoting the information resources of the stories and discourse and recording related to books and the physiognomy of physiognomy. Its purpose, physiognomy is expressive activities, that is, to study the specific phase of the impact that had on literature, art, character modeling. As a specific approach, by advancing the use and construction of three types of databases, it is intended to measure the accumulation of analysis and sharing research resource information. The present study, through these activities, and the significance with the body of knowledge of Japan "physiognomy" should say forgotten academic and even, it aims to ask the world contemporary possibilities. This paper and the theoretical grounding of the study, we describe specific deployment.

1. はじめに

人が人を認識した結果をどのように客観的に表現するか。的確に情報を読み取るための物差しや、その様態を伝達するための表現方法、その伝達媒体として使われる文字・音声などを使用した言語、絵画などの表現様式、さらには数値情報として計測・統計可能とする装置などなど……、人間観察技術の向上ために繰り返されてきた人間の智恵の営みの歴史は長い。

「観相」とは、人の身体・容貌・声・気色(オーラのようなもの)を観察して、その性質・禍福を見通すことをいう。いわゆる人相見である。

人相見(面相)に代表される「観相」の歴史は古く、その裾野は広い。医学における望診・絵画における肖像の描き分け、言説方面では王朝創世神話の演出、才人説話の潤色など、古来より多くの痕跡が残されてきており、今なお受け継がれている部分も少なくない。

観相を今風に評すると、「人間を観察する技術の精華」とでも表現できようか。今ではあまり一般的とはいえず難くなった「観相」だが、今よりもはるかに古い師などが多かった前近代の社会で

は、観相をめぐる知識体系は、創作活動や創作物に少なからぬ影響を及ぼしていたようである。

観相の蘊奥を記した書物のことを相書と呼称するが、もとより日本における前近代・近代の古典籍については、世界随一の残存量を誇るといわれており²⁾³⁾、相書についても、これまでの書誌調査の経験と、青山英正氏の論⁴⁾からも同様のこととの感触を得ている。このことから、その知的体系の厚みが相当なものであった事は想像に難くない。しかし、現代の占術界では人相専門の術者は稀少である。

その理由は、人相は変化しやすいために確度が高くなく、今では四柱推命や易のような他の術法が主流という。このことは、調査を行った台湾・中国でも同様で、人相見の衰退は世界趨勢といえるかもしれない。

稿者は上記現状に鑑み、古典籍原本による観相学の知識体系の整理を志して平成21年度から現在に至るまで学振、所属所(総研大)等の研究補助金を得て、古典籍を中心とする相書と観相に関わる物語や言説・記録の情報資源化を進めてきた。

その目的は、人相学が表現活動、すなわち文学・美術・キャラクター造形に及ぼした影響の具体相を研究するためである。具体的研究方法としては、

3種類のデータベース（観相トピックマップ・歴史人物画像データベース・SD法によるアンケートのデータベース化）の構築と利用を進めることで、情報の分析・共有と研究資源の蓄積をはかり、あわせて国内外における観相の実態調査（東大阪市と台湾台北市・中国福建省泉州市・陝西省西安市）を行った。そして、こうした活動を通じて、忘れ去られた学問とでもいべき日本の「人相学」の知識体系を明らかにし、意義づけ、客観性の確保と、応用の可能性を追究することをめざしている。

本研究活動で特徴的なこととしては、

- A. 実際に観相師に占ってもらうこと。
- B. 相書の書誌調査および収集を行い整理（データベース化）と分析を行うこと。
- C. 日中における観相の言説を集め、相書と照らし合わせて分析すること。

などが挙げられる。いずれも観相の具体相や知見を知り、その影響と言説との照らし合わせを行うことが活動の主目的である。

研究を進めてきた過程で痛感したことには、観相の説の継承性の高さと、影響の裾野の広さである。たとえば文学作品においても既読作品を観相の視点で読み返すと、違った視界が開けてくる。その他にも様々な課題と発見が常に浮上してくるのが、正直な感想である。

本稿では、文献の分析を通じて得られた理論的裏付けと、データ分析を通して得られた研究のビジョンとその展開の可能性について述べる。

2. 研究を支えるデータベース①

—観相トピックマップ—

本研究を遂行するに際して、3つのデータベースの構築し、それらを基盤として情報学的観点による分析を進めている。

以下に概説する。

(1)観相トピックマップ 5)

観相書に記載される相の内容と絵を切り取ってデータベース化したもの。2015年現在で公開しているものは、9種類(20部位、約1,000種の表現)の相書に書かれる相を構造化してデータベース化している。具体的作品名は以下の通り。

永代雑書万暦大成・慶安版神相全編・神相全編正義・増積麻衣相法全編（同治12[1873年]重

鑄・善成堂蔵板）・国宝大雑書（嘉永6年[1853]刊・興文堂主人輯、柳川重信画）・人相小鑑大全・万延元版（万延元年[1860]刊・正宝堂蔵版、喜多村江南軒述）・相法秘訣（宝暦元年刊[1751]・菅沼毅風述）・文久大雑書万歳曆（貝原益軒述）中の人相図会口伝抄・人相水鏡集約編（宝暦6・1764）〔国文学研究資料館蔵・架蔵番号54/303/1-5〕

などである。

データベースの構造は図1のオントロジ図で示した通り。

本データベースの特徴は、相書部分から絵のある部分を抽出し、その解説と絵とをデータベース化していることにある。典拠とする相書のほとんどは筆者の架蔵になるが、将来的には相書のコレクターでもある青山英正氏（明星大学）の協力を得て、国内で刊行された相書のほとんど、全典籍の搭載と公開を予定している。

図2は目の部分「驚眼（ががん）」の搭載されるデータの一覧画面である。観相の特徴として、その形質・気質はそれに類似する動物にも共通するとして、それに見立てた命名が行われている点が挙げられる。このことは西洋で伝統的な初期観相学でも行われておりシャルル・ルブランの動物観相学にも端的に表れている。動物観相学は洋の東西を問わず共通に見られたアプローチであった。

その他、日本の近代文学作品（164作品）から観相に関わる場面を抽出し、その場面が実在の場面である場合には、GIS情報を付加し、当該場面が表示されるようにしている。

現在掲載されているのは、近代作品にとどまっているが、すでに和漢の古典文学作品についての取材の蓄積も既発表の論文などで相当数の蓄積があるので、いずれそれらも搭載を行う予定である。なお、現在進めている研究プロジェクト「観相資料の学際的研究—マンガも視野に入れた古籍観相資料の分析と応用—」（JSPS 科研費 15K12853）においては、観相に関する言説が相当に蓄積されているので、それを反映させるほか、搭載する観相書の書肆（発行・売り捌き所）のGIS情報を取り込んで、観相に特化した地図の表示を表示させることも予定している。

ただし、現段階ではGoogle Mapを利用した表示であるため、中華人民共和国では全く利用できない。このことの対応策として、大陸中国の動向をしばらく見定めるか、あるいはYahooマップなどの利用の検討の必要性も模索している段階にある。

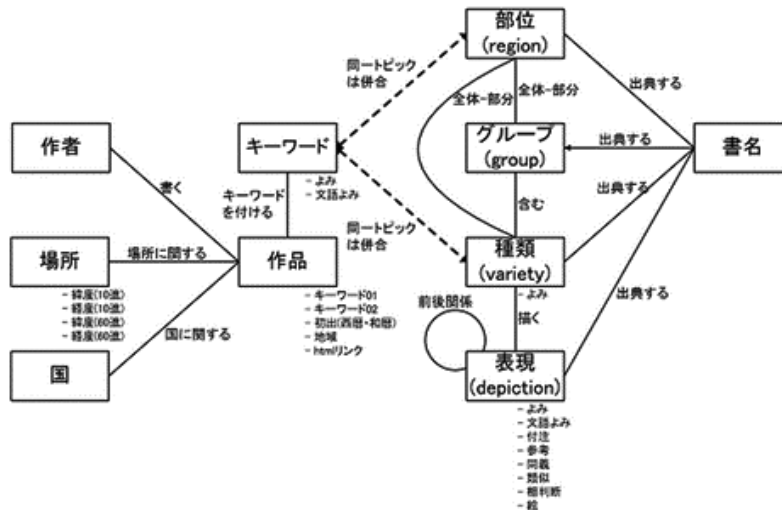


図1 観相トピックマップのオントロジ図 (ナレッジシナジー内藤求氏作成による)



図2 データベース画面 (目の部分)

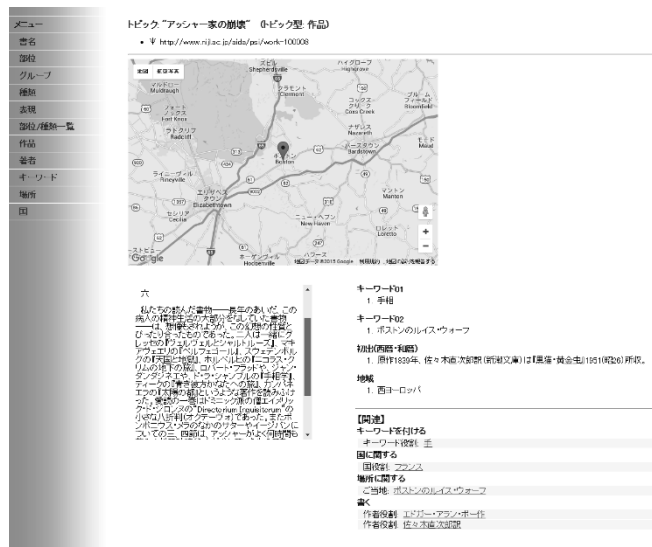


図3 観相場面集 (近代作品)

3. 研究を支えるデータベース②

—歴史人物（古典キャラクタ）画像データベース—

歴史人物（古典キャラクタ）画像データベース⁷⁾は国文学研究資料館で2008年からWeb公開、それ以前はDVD-ROMによるデータベースで公開されてきたもので、比較的長い開発経緯を持つ⁸⁾。国書古典籍中の絵本（絵入り叢伝）61種類から古典キャラクターの人物画像を集めてデータベース化したもの。おもに明治以前のものから挿絵の古典キャラクター画像（約3100名・4700件）のみを切り出し、各人物がどのように描かれてきたか顔の拡大図と全身像、収載丁全図の3種画像を1レコードに並列して示している。そのため、それぞれの人相が先述の観相トピックマップの人相図のどれにあてはまるのかを比較することによって、その歴史人物画像に描かれた肖像の人相を比較することができるようになっている。

本データベースに採り上げた作品には書名に「絵本」を冠したものが少なくなく、現在公開されているものを採り上げても9種を数える。

- 絵本故事談・橘有税（橘守国）画、1714年刊
 - 絵本徒然草：西川祐信画、1740年刊
 - 絵本倭比事：西川祐信画、1742年刊
 - 絵本威武貴山：勝川春章画、1778年刊
 - 絵本武者備考：西川祐信画、1779年刊
 - 絵本堪忍記：速水春暁斎（一世）画、1827年刊
 - 絵本武蔵鑑：葛飾北斎（一世）画、1836年刊
 - 絵本武勇伝：遠浪斎重光画、1853年刊
 - 絵本忠経：葛飾北斎（一世）画、1834年刊
- そもそも近世期までの「絵本」の意味には、た

とえば『日葡辞書』の補遺に、

Yehon. エホン（絵本）絵を描く手本となる写本や原本⁹⁾

とあるように、現代のように絵を主とした子ども向きの本というよりも、「粉本」と呼ばれる絵を描くための手本の意味として使われることの方が一般的であった。

鈴木淳氏は、江戸時代享保年間（1716～36）以前は、『日葡辞書』にいう意味こそが最も基本的な「絵本」の意味であるとともに、これ以外の意味は存在しなかったのではないかとまで述べられた。ところが、享保も終わり元文も過ぎて寛保に入った1742年（寛保2）に出された西川祐信（1671-1750）画の『絵本倭比事』（九巻付一卷十冊）の付録の『画法彩色法』1巻で、

唐流の人物山水等は、先古の妙手時々絵がきて缺ることなし、和流の物は稍見る事稀なり、今この書によつて本朝の故事、古今の及び山水草木等を模写して参見に備ふ、いさゝ闕たるを補ふの微志ならんか、（「画図広可画類事」）

と享保以降にも絵本が手本の意味で使われたことを示す記述がある。『画法彩色法』は、初期浮世絵の大家西川祐信が記した、日本人により論じられた画論として、しかも浮世絵画家により論じられた珍しいもので、和流の絵を宣揚するための様々な心得を記したものとして著名である¹⁰⁾。西川祐信は一枚刷りでは無く京都にあって絵本を主に手がけたことと考え合わせると、絵入り刊本を主に収集している本データベースの意義は重要である。

歴史人物画像データベース



図4 歴史人物（古典キャラクタ）画像データベース

このことと併せて考えに入れなくてはならないのは、中国画論の要諦の一つに、肖像を描くには「相法」に通暁するべきことがある。

凡画，人最難，次山水，次犬馬，台樹，一定器耳，難成而易好，不待遷想妙得」（晋・顧愷之 [344? - 405?] 『論画』）

と、中国では六朝期にすでに人物肖像の難しさが自覚されており、元末の画家、王繹（思善）[1333~?] 『写像秘訣』に至っては、

○凡写像，須通暁相法。蓋人之面貌部位，与夫五岳四瀆，各々不侔，自有相对照处，而四時気色亦異。[凡そ像を写すには，須らく相法に通暁すべし。蓋し人の面貌の部位は，夫の五嶽四瀆と各々侔しからず，自らに相對照する処有り，而して四時の気色亦た異なる。]（元・王繹（思善）[1333~?] 『写像秘訣』 [王紱[1362-1416] 『書画伝習録』 卷二も同文を引く）

と、肖像を描くには相法つまり人相見（観相）に通暁するべきことが求められていたのである

さらに、中国明代初期の文人、王紱はその言を承けて、形を写生することは困難ではなく、心を写しとることが難しいからという。

写形不難，写心則難。帝堯秀眉，魯僖司馬亦秀眉，舜重瞳，項羽，朱友敬亦重瞳。沛公龍顏，嵇叔夜亦龍顏，……（中略）……写其形，必伝其神。伝其神，必其心。形似何益，故曰写心難。

（王紱[1362-1416] 『書画伝習録』 卷二）

この考え方は日本にも入っており、湖上篔簹翁『画学捷徑 [画法小識]』, 1836年 [天保7] 刊、人物部・画像に、以下のような言をとどめている。

凡写真とは先人相をしることを要とす。然ども大段を云へば、よき器量は皆貴人賢人なり、悪し

き器量は皆卑人悪人也，…（以下略）…
南京にあった李漁の別荘「芥子園」に由来し、李漁の字から採った「笠翁画伝」という別名を想起させる筆名の「湖上篔簹翁」は、第四集人物編冒頭に引かれる『写像秘訣』の「凡写像，須通暁相法」の言そのままに画を説いているのである。

こうした中国絵画に関する通念がすでであり、人物の描き分けもとより中国画論に多くを依っていたがために、日本独自の画論に乏しい文化的風土の中、このような論が残されていることの蓋然性を保証するためには、実際に絵の検討をなにがしかの方法で行わなければならないだろう。そこで稿者の採った方法の一つがSD法である。

4. 研究を支えるデータベース③

—SD法アンケートによる自動化の試み—

SD法は図形や、大小・冷熱などの対(ついで)形容詞を、通常七段階に評価させて、行動の情意的意味を客観的に測定する方法で、心理学者オズグッドが開発・発展したもので、パーソナリティ検査などのほか、商品のイメージ調整にも用いられるものである。意味差判別法とも呼ばれるが、稿者はCH研究会で盛んに発表された辻田忠弘氏（甲南大学名誉教授）の手法を応用した30種類7段階の比較による質問紙法で集計を行った11)。

具体的には図5に示した質問紙を約15-20の人に配布し、それぞれ印象を記述してもらったものを集計するものである。

次の絵画に関する印象を答えて下さい
shuhudare.com@gmail.com
に送信して下さい。件名は
6月28日4時開目・名前
人物肖像画に関する感性処理実験(SD法)
以下30項目の該当すると思われる箇所に入力して下さい

マイナスの好悪度	-3	-2	-1	0	1	2	3	プラスの好悪度
親しみにくい		<input type="radio"/>						親しみやすい
みずぼらしい			<input type="radio"/>					ずぼらしい
いやらしい				<input type="radio"/>				好ましい
みにくい					<input type="radio"/>			美しい
子供っぽい						<input type="radio"/>		大人っぽい
つまらない		<input type="radio"/>						おもしろい
おろかな							<input type="radio"/>	かしこい
悪い		<input type="radio"/>						良い
寒たい				<input type="radio"/>				暖たい
やぼったい					<input type="radio"/>			しゃれた
暗い			<input type="radio"/>					明るい
つたない				<input type="radio"/>				あなたらしい
虚脱的な						<input type="radio"/>		直感的な
落ちついた		<input type="radio"/>						活発な
不愉快な			<input type="radio"/>					愉快な
寒々しい				<input type="radio"/>				やさしい
下品な						<input type="radio"/>		上品な
悪しい							<input type="radio"/>	豊かな
幼稚な					<input type="radio"/>			成熟な
ひびく						<input type="radio"/>		立派な
あたららしい							<input type="radio"/>	おだやかな
うわべだけ							<input type="radio"/>	深みのある
軽い							<input type="radio"/>	重い
やわらかい						<input type="radio"/>		かたい
涼い		<input type="radio"/>						暑い
男性的な							<input type="radio"/>	女性的な
清純的な					<input type="radio"/>			複雑的な
穏しい						<input type="radio"/>		力強い
にくらしい			<input type="radio"/>					かわいらしい
かたしい				<input type="radio"/>				うれしい



図5 アンケート用紙

具体的には、以下の通りである。

延べアンケート数 417

各パターン平均 16

最大 21


最小 2 (集計から除外)

アンケート用紙には 1 紙に 1 種類の絵が描かれており、その印象を SD 法による質問で回答してもらおうものである。授業時における出欠票として記入するほか、学会発表におけるアンケートなどさまざまな機会で行った。

アンケートに使用した絵は、千利休や足利尊氏

の絵、観相書からは慶安版『神相全編』と『三台万用正宗』、文化年刊刊の『神相全編正義』などから人相の基本パターンとなる八相并六面図(図9参照)を取り合わせた絵をそれぞれ配布した。慶安版の『神相全編』と『三台万用正宗』は、明代に描かれたと思しい人相の絵柄が踏襲されており、文化年間刊の『神相全編正義』はその絵を新たに加藤遠塵斎が石龍子の監修の許に新たに描き起こしたものである。これらの人相画は現代でも踏襲されており、細木数子などは『神相全編』に依る観相を旨としていることが知られている。

図6に集計された質問紙を示した。

3次元表示 3-Dimension	マイナスの好感度	- Bad Feelings	+ Good Feelings	プラスの好感度	平均 Mean Value	標準偏差 Standard Deviation	A profane physiognomy
評価性 Appraisal	親しみにくい	Unfriendly	Friendly	親しみやすい	0.157894737	1.6035675	
	みずばらしい	Shabby	Decent	すばらしい	-0.26315789	2.5634798	
	いやらしい	Disgusting	Favorable	好ましい	-0.21052632	2.3603874	
	みにくい	Ugly	Pure	美しい	-0.36842105	2.6095064	
	子供っぽい	Childish	Adult-like	大人っぽい	1.368421053	2.6276914	
	つまらない	Boring	Amusing	おもしろい	-0.31578947	1.8898224	
	おろかな	Stupid	Clever	かしこい	-0.10526316	2.4976179	
	悪い	Wrong	Fine	良い	0.105263158	2.4102954	
	老いた	Old	Young	若い	-1.57894737	3.4982989	
	やぼったい	Homely	Fancy	しゃれた	-0.31578947	2.3603874	
活動性 Activity	暗い	Dark	Bright	明るい	-0.73684211	2.2886885	
	つめたい	Cold	Warm	あたたかい	-0.33333333	2.0586635	
	庶民的な	Common	Noble	貴族的な	-0.42105263	2.0586635	
	落ち着いた	Calm	Active	活発な	-1	2.9277002	
	不愉快な	Disagreeable	Pleasure	愉快な	-0.63157895	1.4960265	
	きびしい	Severe	Friendly	やさしい	-0.27777778	1.976047	
	下品な	Vulgar	Elegant	上品な	-0.21052632	2.7516229	
	貧しい	Poor	Plentiful	豊かな	-0.42105263	1.6035675	
	地味な	Sober	Flashy	派手な	-0.44444444	2.4102954	
	ひ弱な	Spineless	Admirable	立派な	-0.36842105	2.8115408	
力量性 Ability	あらあらしい	Gruff	Gentle	おだやかな	0.105263158	1.7728105	
	うわべだけ	Semblance	Depth	深みのある	0.473684211	1.8644545	
	軽い	Light	Heavy	重い	0.315789474	1.8644545	
	やわらかい	Soft	Stiff	かたい	0	2.2146697	
	濃い	Pale	Dark	濃い	0.157894737	1.6035675	
	男性的な	Mannish	Feminine	女性的な	-1.47368421	2.0586635	
	消極的な	Negative	Positive	積極的な	-1.15789474	2.4102954	
	弱々しい	Sickly	Strong	力強い	-1.21052632	2.0586635	
	にくらしい	Hateful	Cute	かわいらしい	-0.61111111	2.6903708	
	かなしい	Sad	Happy	うれしい	-0.84210526	1.7994708	

3次元表示 3-Dimension	マイナスの好感度	- Bad Feelings	+ Good Feelings	プラスの好感度	平均 Mean Value	標準偏差 Standard Deviation	千利休 秀雅百人一首 Sen no Rikū
評価性 Appraisal	親しみにくい	Unfriendly	Friendly	親しみやすい	-0.5	1.6035675	
	みずばらしい	Shabby	Decent	すばらしい	-0.25	2.5634798	
	いやらしい	Disgusting	Favorable	好ましい	-0.375	2.3603874	
	みにくい	Ugly	Pure	美しい	-0.73333333	2.6095064	
	子供っぽい	Childish	Adult-like	大人っぽい	1.5625	2.6276914	
	つまらない	Boring	Amusing	おもしろい	-0.6875	1.8898224	
	おろかな	Stupid	Clever	かしこい	0.1875	2.4976179	
	悪い	Wrong	Fine	良い	0.2	2.4102954	
	老いた	Old	Young	若い	-2.0625	3.4982989	
	やぼったい	Homely	Fancy	しゃれた	-1.4375	2.3603874	
活動性 Activity	暗い	Dark	Bright	明るい	-1	2.2886885	
	つめたい	Cold	Warm	あたたかい	-0.3125	2.0586635	
	庶民的な	Common	Noble	貴族的な	-0.375	2.0586635	
	落ち着いた	Calm	Active	活発な	-1.125	2.9277002	
	不愉快な	Disagreeable	Pleasure	愉快な	-0.4375	1.4960265	
	きびしい	Severe	Friendly	やさしい	-0.75	1.976047	
	下品な	Vulgar	Elegant	上品な	-0.125	2.7516229	
	貧しい	Poor	Plentiful	豊かな	-0.375	1.6035675	
	地味な	Sober	Flashy	派手な	-0.8	2.4102954	
	ひ弱な	Spineless	Admirable	立派な	-0.625	2.8115408	
力量性 Ability	あらあらしい	Gruff	Gentle	おだやかな	-0.2	1.7728105	
	うわべだけ	Semblance	Depth	深みのある	0.86666667	1.8644545	
	軽い	Light	Heavy	重い	0.93333333	1.8644545	
	やわらかい	Soft	Stiff	かたい	1.1875	2.2146697	
	濃い	Pale	Dark	濃い	0.375	1.6035675	
	男性的な	Mannish	Feminine	女性的な	-1.4375	2.0586635	
	消極的な	Negative	Positive	積極的な	-0.8	2.4102954	
	弱々しい	Sickly	Strong	力強い	-0.125	2.0586635	
	にくらしい	Hateful	Cute	かわいらしい	-0.4375	2.6903708	
	かなしい	Sad	Happy	うれしい	-0.8125	1.7994708	

図6 アンケート集計結果 有効件数 俗相 19件(上)・千利休 16件(下)

図6の千利休の肖像は図7『秀雅百人一首』で歌川(一陽齋)国芳が描いた独特の絵を典拠とする。国芳は、猫の絵などで有名だが、伝統的な千利休像は図8で示したような絵で知られ、国芳のものだけ独特な雰囲気を持っている。

図8の伝統的な利休像は貴相と判断され、詞書き、歌などからもそのことは裏付けられる。

千利久は田中氏幼名を与「四郎と呼泉州堺にうまる」若りし時足利家に仕へて「同朋の役をつとめ千阿弥と」いふゆゑに後千利久休といひ又「宗易ともよぶ茶の道に」妙なる事は世の人の知る「所なり又和歌をもよくす」○おくあみの歌は堺の濱に「夜網ひろるさまを見てよみ」いでしものなり都紫野「なる大徳寺の山門に我木像を置く事によりて終」をよくせず尤惜むべし「歌」おく網のなかにやどれる月かげを「おのがものとや海士のひくらん

印象相でいうならば清相が該当し、『神相全編』では「高踏的な態度をとりすぎず、器量豊かに構えないと、かえって薄相に近くなってしまうことを警告」して的確を得ている。

一方、図7の詞書と歌は次のようにある。

千の利休はじめは与四郎と云十七「才より道陳に随つて茶を学び名」を宗易といふ茶の道とせる歌に「花を見て待らん人に山里の」雪間の草の春を見せばや「此心をもつてすといへり扱茶器のことは東山殿古器古画を好み給ふより」價たかくなり又豊太閣の一奇器にして國郡も与ふべき功臣に千金の器物を給はりて人心を結ん為の謀事なるに治世に成りても茶をするもの奢にふけり金銀を費し得がたき道「具を求め或は其業ならぬ人も監定にことよせこれをもて利をむさ」ぼるなど心さまよからぬ人も有古器は「貴きものと心得價のたかき器をあい」するは心利欲に走るがゆへ也缺たる「すり鉢にても時の間にあふを茶道の本意とすとこの歌をよめり」〔歌〕釜一つ持てば茶の湯はなるものを「よろづの道具好むはかなさ」

歌川国芳の描いた利休像はSD法によっても演繹的に「俗相」であることが導かれ、そのことは詞書きによっても証される。SD法によるサンプル数を増やしていけば、自動的に絵画の相判定を行うことも可能と予測する次第である。そのためにも、集計を簡便にするためのデータベース機能の開発は今後の研究のためにも必須となるだろ

う。

5. あとがき

前近代に忘却されたかのような観相の学問体系は、肖像との関連をキーに新たな可能性を拓きつつある。現在の成果は人文学領域にとどまるものだが、共同研究者の松井知子氏(統計数理研究所)からは、本データベースに使用される相書の各部位の画像を使用して、各画像に吉凶を判断するフラグを与え、機械学習に任せることによりデータ量の増加にともない、人相判断の正解確率が高まってきたとの報告を受けている。データ量の増加とデータベースの整備の進展は、今後も分野を超えたさらなる応用展開が期待され、さらなるアイデアが待たれる次第である。

なお、本研究は JSPS 科研費 23240032, 15K12853 の助成を受けたものです。記して深謝申し上げます。

参考文献

- 1) 石切一番館(東大阪市東石切町2-1-4) 檀幸叡氏の言による。
- 2) 橋口侯之介: ,日本人は物持ちが好い? (エッセイ 古本屋の仕事場9), 誠心堂書店書目119(2009)
- 3) 橋口侯之介: 和本への招待 日本人と書物の歴史, 角川選書情報処理学会(2011)
- 4) 青山英正: 近世日本観相書板本目録, 明星大学研究紀要 人文学部日本文化学科 21, pp111-130(2013)
- 5) <http://tmapp1.topicmaps-space.jp/physiognomy/>
- 6) 遠藤知巳: 観相学的身體の成立—記号の系譜学に向かつて—, ソシオゴロスNo.17, 東京大学文学部社会学研究室内ソシオゴロス編集委員会(1993)
- 7) <http://base1.nijl.ac.jp/~rekijin/>
- 8) 相田満: 古典人物絵画検索・画像分析のためのナビゲーションとオントロジー「歴史人物画像(古典キャラクター)データベース」の試み一, 情報処理学会論文集「人文科学とコンピュータシンポジウム(じんもんこん)2008」, pp147-154ほか
- 9) 『邦訳日葡辞書』, 岩波書店, p816(1980)
- 10) 相田満: 騎馬武者像再考—西川祐信『絵本武者備考』を起点として観相の視点から考える一, 説話12, 説話研究会, pp67-85(2014)
- 11) 深野淳・水内保宏・辻田忠弘: フェルメール作「絵画芸術」におけるモチーフの再現, 情報処理学会研究報告. 人文科学とコンピュータ研究会報告, vol.2004, no.78, pp.47-54, 2004-07-30